

### 1. 教育の責任

社会科学の使命は健全な判断力を持った主権者の育成であり、教育者として戦後日本の社会科学の成果を伝えていく責務を負う。

### 2. 教育の理念

「教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸にきざむこと。」教育者なら誰もが知るこの理念に基づき、前の世代の良きものを $\alpha$ 世代にも確実に手渡していきたい。

### 3. 教育の方法

励行している原則は前職で学んだ<教育技術の法則化運動>に裨益するところが多い。すなわち①～のために～をしなさい、と指示の意味を説明する。②同時に2つも3つも指示を与えない。③指示は限定的に短く10～15秒以内。④必ず全員に届くような指示。追加指示はしない。⑤作業する場の設定、作業時間の配分、必要な用具の段取りを事前にしておく。⑥指導内容を細分化し、イメージとして伝える。⑦全体指示を先に、個別指示を後に。終了した者の次の課題は必ず用意。⑧授業途中でこまめにさりげなく達成率を確認する。⑨集団であっても個別の評価が子供に即時にわかる工夫をする。⑩子供が欠点を克服できるよう絶えず励まし続ける。以上の方法論は拙稿（本学論集 2009）で詳論した。また単調さを避けるため利用媒体の頻繁な切替えも有効ではある。

### 4. 教育の成果

社会科学領域では学生の希望を生かしつつ卒論指導につとめ、現代社会学部では成績優秀者、最優秀卒業生（2019年）などを輩出してきた。現行学部ではコア科目から篩い分けられてきたゼミ学生の蘇生に取り組んでいる。

### 5. 改善への努力と今後の目標

専攻内で境界的な立ち位置のため課題は多い。規定人数以下の開講要請で安定した授業は可能か、初年次特有のヒヤリハットの生じる見学授業で訪問先との関係をどう維持するか、など課題は尽きない。設置趣旨が齟齬していることも多く、地道に現場の声を届け続けていくほかないと思われる。

### 【添付資料】